

報告書の作成にあたって

(ODA調査派遣の経緯)

参議院は、平成15年7月28日の参議院改革協議会(座長:青木幹雄議員(当時))報告書の提言「ODA経費の効率的運用に資するため、新たにODAに関する専門の調査団を派遣すること」等に基づき、平成16年度から毎年度ODA調査のための議員派遣を行っている。なお、平成17年度以降は、政府開発援助等に関する特別委員会において、ODA調査派遣団各班からの報告聴取及び意見交換が行われているところである。

第9回目となる平成24年度のODA調査派遣は、アフリカ地域としてタンザニア連合共和国、モザンビーク共和国班、東南アジア・大洋州地域としてベトナム社会主義共和国班、南西アジア地域としてインド班の3班で実施された。

(調査報告書の位置付けと内容)

本報告書は3地域に派遣された議員団の調査結果を1冊に取りまとめたものである。構成は、各派遣団に1章を割り当て、訪問した国別に調査の概要を記述している。なお、各派遣団の記述の文責は、各派遣団が負っていることを明らかにしておきたい。また、報告書に記述した問題点の指摘等については、努めて参加した議員の総意となるよう表現を工夫した。

なお、本報告書については、過去の取扱いと同様に、関係委員会等における国政審議のために活用されるよう全議員に配付するとともに、関係諸機関等に送付し、また、本院ホームページ等を通じて、広く一般に公表することとした。

(最後に)

参議院改革協議会報告書の趣旨を踏まえ、参議院は、第9回目のODA調査派遣を行った。近年ODA予算は、厳しい財政事情の中で減少傾向にあるが、平成25年度一般会計で5,573億円の予算が計上されている。この財政支出による政府開発援助が、より一層効率的、効果的に行われるために、本報告書がこれまでの報告書と同様に、国政審議の場を始めとする様々な機会、議員各位の参考として頂くことを切望するものである。

最後になったが、今回のODA調査派遣の実施に当たっても、事前調査及び現地調査で、内外の関係機関等の方々には大変なご協力を頂いた。ここに改めて感謝の意を表したい。

平成25年6月記

参議院政府開発援助調査派遣団

タンザニア、モザンビーク班	団長	津田 弥太郎
ベトナム班	団長	二之湯 智
インド班	団長	北川 イッセイ